

兒こ雷らい也や豪こう傑けつ譚たん  
 上の卷  
 篇ま三さん



^13  
 3878  
 45

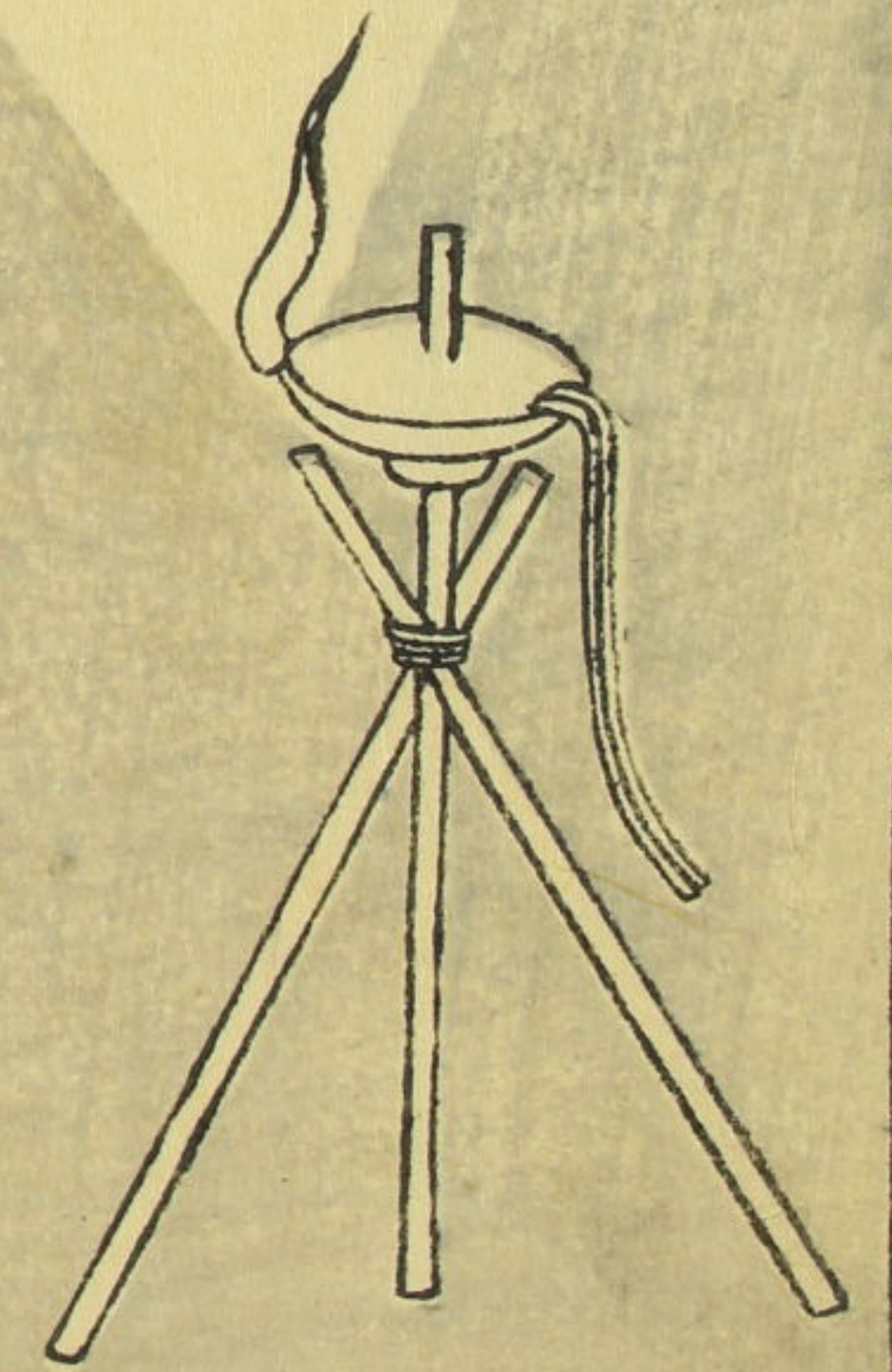


門へ13  
 號 3878  
 卷 15

兒雷也  
 豪傑譚

上卷

押の亭作  
 一壽高画

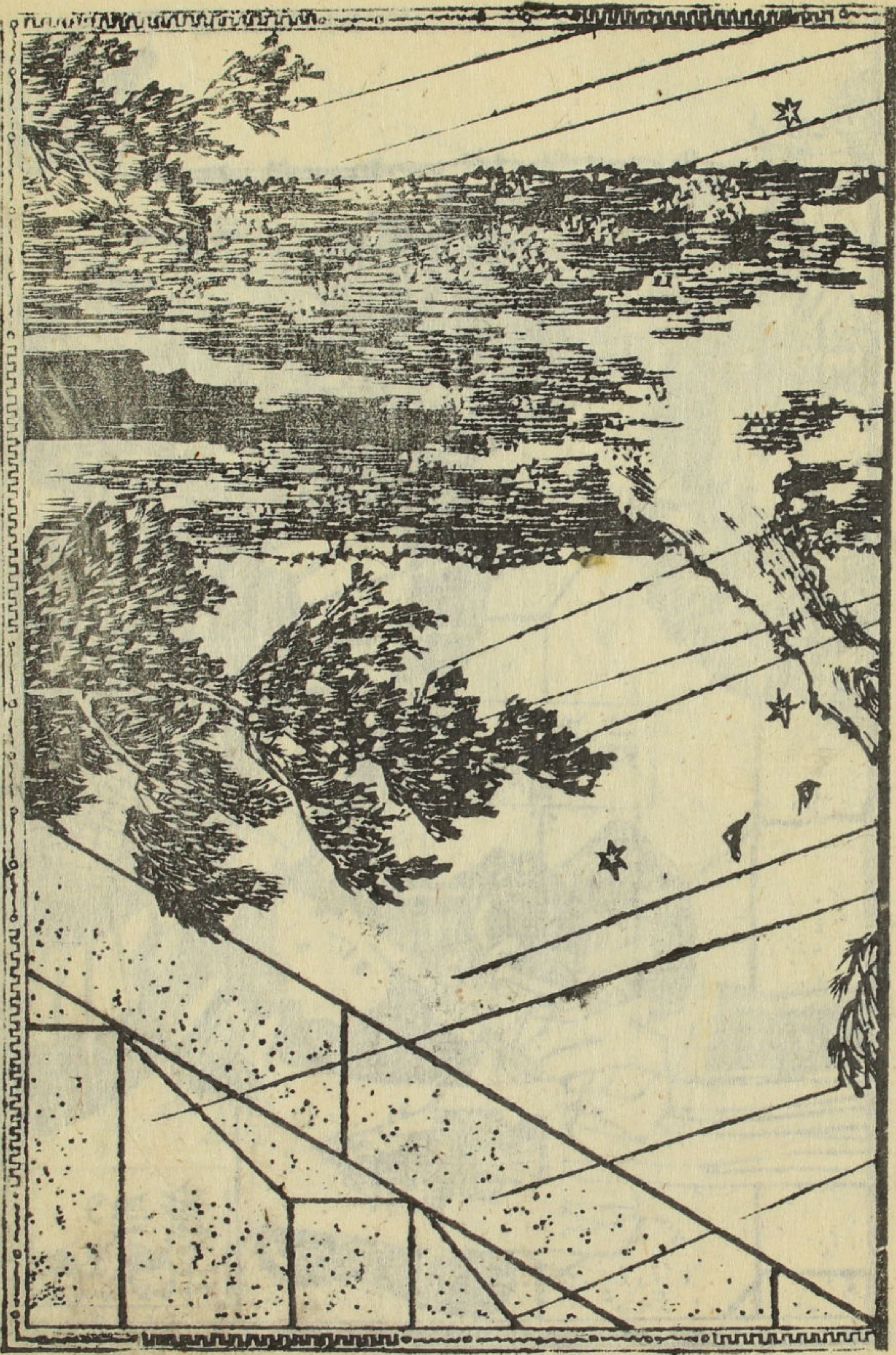
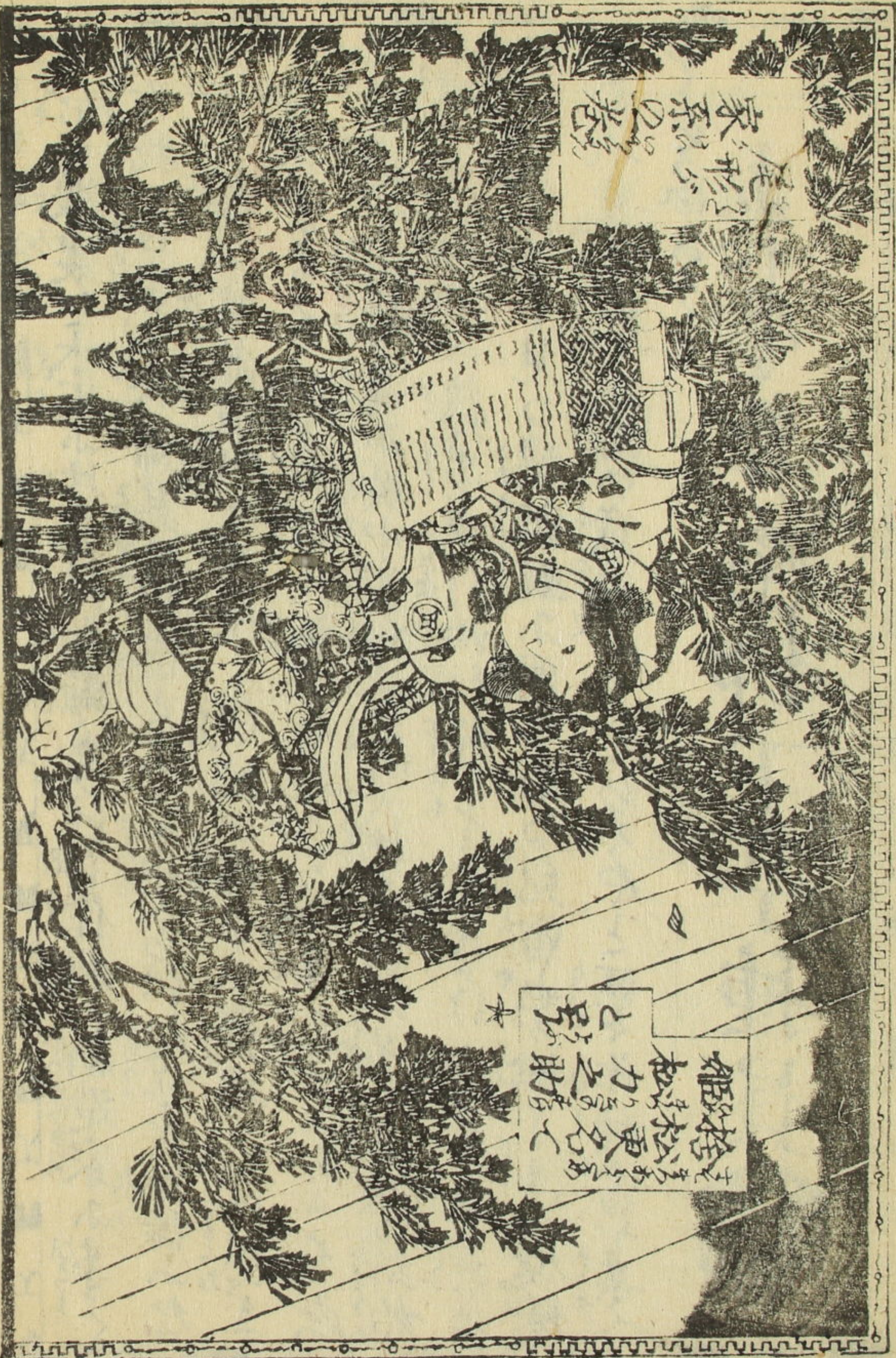


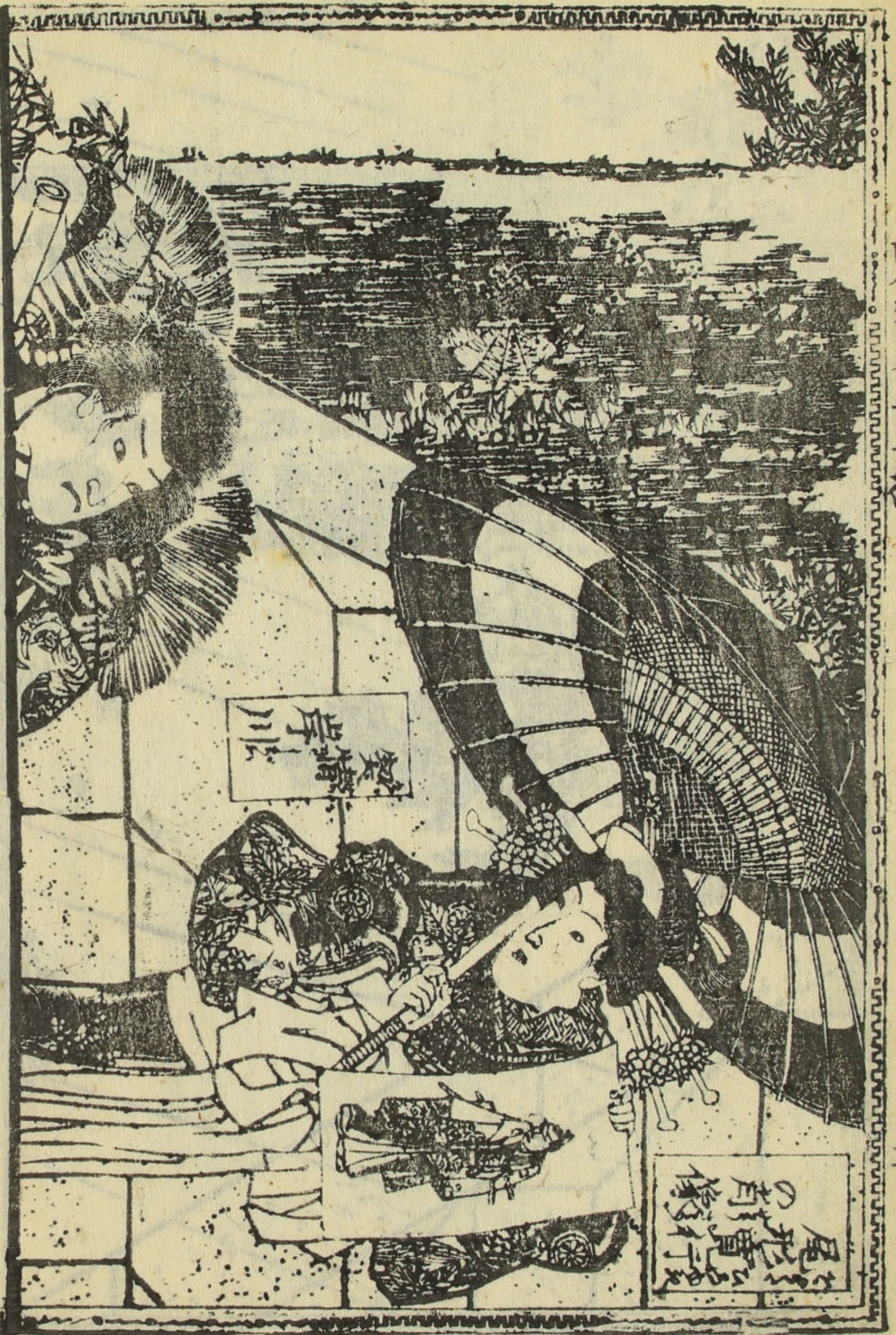
泉市棒

禪官の腹裏に木匠ふ比まれば初編より自作物の新造家ふ等々  
 嗣作物の古舎の修補其故を奈とのふ更地より起立の画苗ふな  
 らんく此野が賓館彼所が庫屋と後編の條やを發端うら仕組ま  
 せ前巻ののまを是書に既輯せ他人の編集拙手ふあふを  
 妙著述を引請邊小胸中を割普請大蛇丸といふ刃を造漆の釘始  
 小規の黒土相華の筏墨東行西行維して建法けける廿三編簷の  
 檜皮葺小並見の連鼓甌ふ因もある兒雷也が櫛子透の模様  
 ふあふと裏富士退治の意匠めもかゝらるやと區々作種書を集  
 むるはあり

嘉永癸丑辰月 柳下亭種員

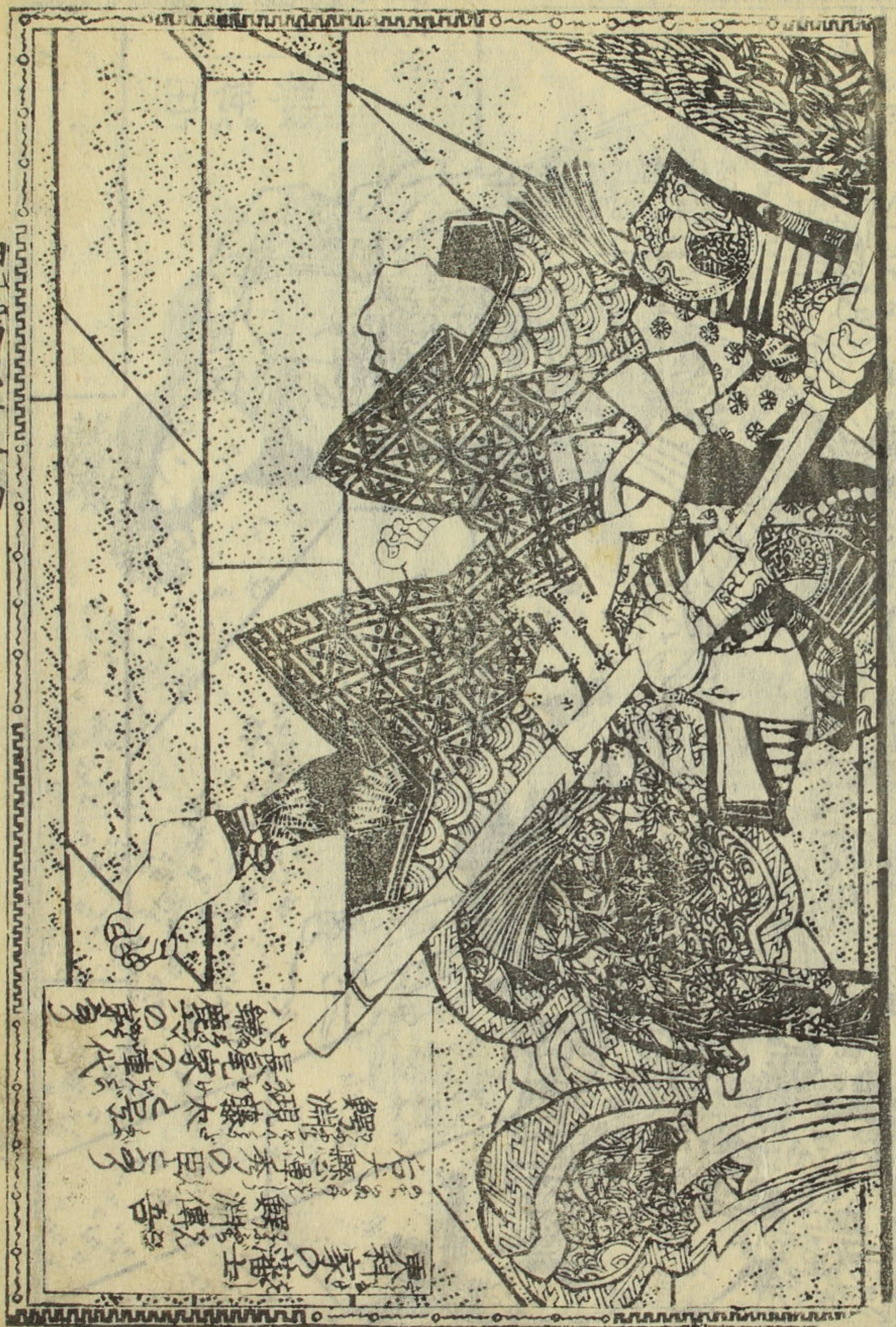




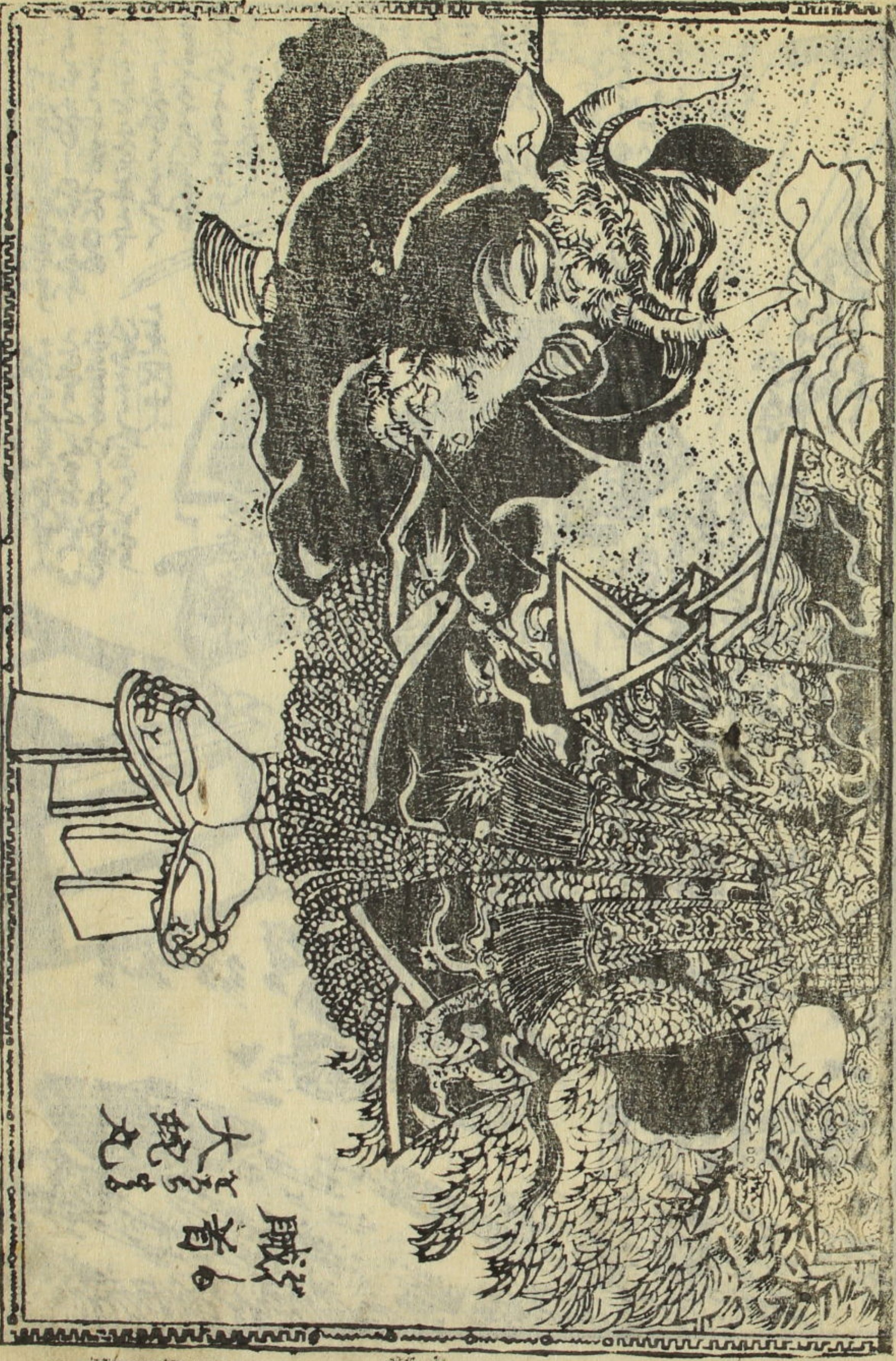
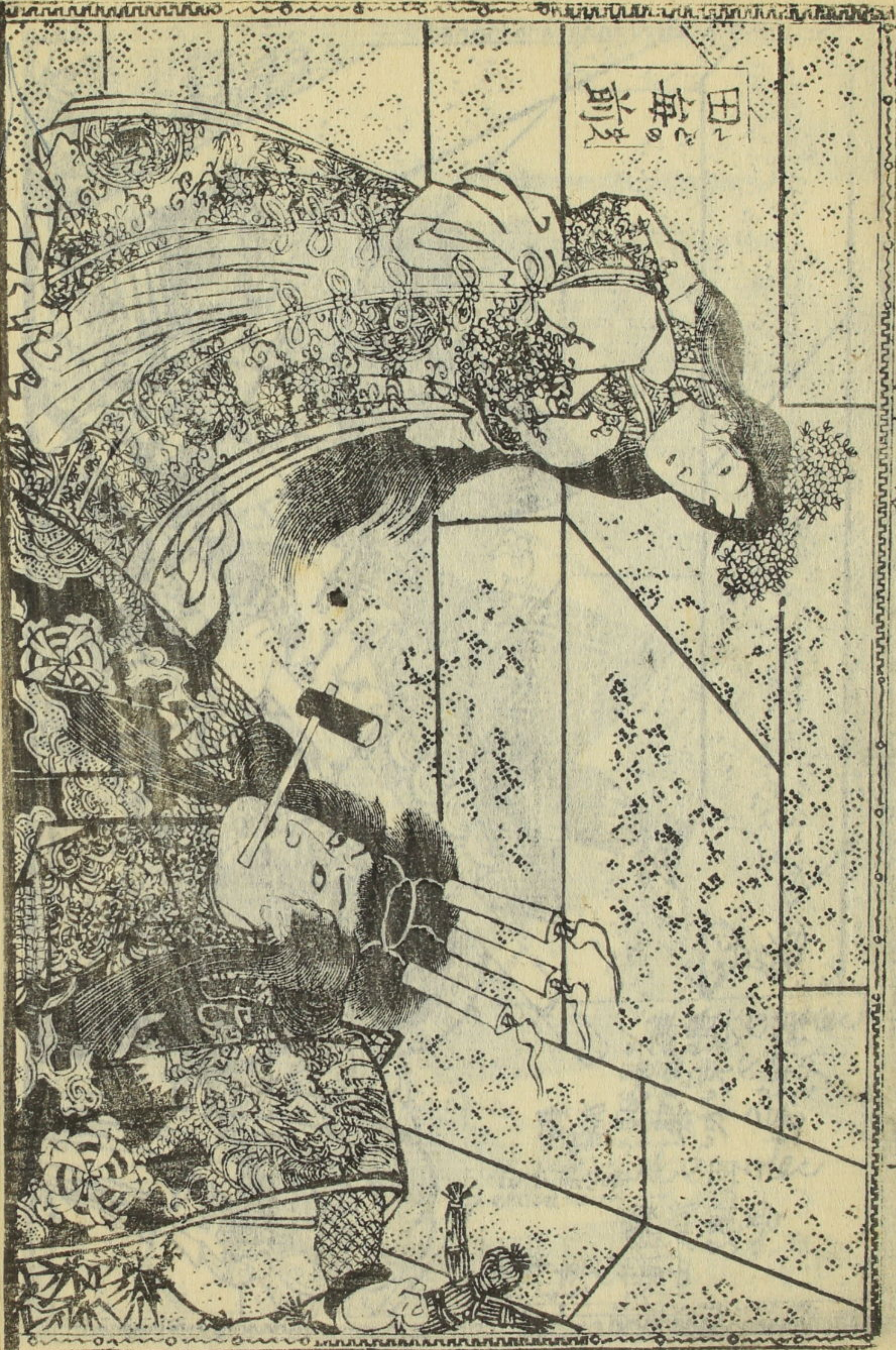


尾形實千代の御像

蟹橋川



東村家の藩士  
 鯉淵伝吾  
 石大懸傳秀の臣之分  
 鯉淵現盛大之号  
 長尾家の車代  
 鯉淵の御像



賊首  
大蛇丸







目録  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十



